

科目名	化学基礎		学年	普通科		必/選	単位数
			1	国文	普通	必修	2
				○	○		
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
使用教材	教科書：「i版 化学基礎」(啓林館) 副教材：「新課程版 ネオパルノート 化学基礎」(第一学習社)						
評 価	評価法	(1)授業への取り組み(2)プリントの記載内容(3)観察・実験等(4)教科書・問題集の問題(5)定期考査の5つの項目を評価の観点別に評価します。					
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	定期考査、教科書・問題集の問題、小テスト、観察・実験等			
		b	思考・判断・表現	定期考査、プリントの記載内容、教科書・問題集の問題、観察・実験等			
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢、出席状況、プリントや問題集の提出状況			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。							
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	4	序章化学って何?	身近な物質の性質を調べることを通して化学の特徴を学ぶ。	考査	考査	提出物
	5	8	第1部物質の構成 第1章化学と物質	物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について学ぶ。	小テスト		
1	5	7	第2章 物質の構成粒子	原子の構造、とりわけ電子配置と原子の性質との関係を学ぶ。	考査 小テスト	考査	提出物
1	6	12	第3章 化学結合	原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について学ぶ。	考査 小テスト	考査	提出物
2	9	11	第2部物質の変化 第1章 物質と化学反応式	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質」とその単位 mol、化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて学ぶ。	考査 小テスト	考査	提出物
	11	11	第2章 酸と塩基	酸と塩基の性質や中和反応について学ぶ。	考査 小テスト	考査	提出物
3	1	11	第3章 酸化還元反応	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みや利用例について学ぶ。	考査 小テスト	考査	提出物
担当者からのメッセージ (学習方法など)							
授業に集中して取り組み、ファイルや問題集を必ず提出すること。定期考査は授業の内容を問われるのでしっかり復習してからうけること。							

科目名	生物基礎		学年	普通科		必/選	単位数
			1	国文	普通	必修	2
				○	○		
学習の目標	生物や生物現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
使用教材	教科書：「高等学校 新生物基礎」 (第一学習社) 副教材：「新課程版 ネオパルノート 生物基礎」 (第一学習社)						
評価	評価法	(1) 授業への取り組み (態度・発問) (2) 板書及びプリントの内容 (3) 観察・実験等の取り組み・レポート (4) 問題集の取り組み (5) 定期考査・小テスト の5つの項目を評価の観点別に評価します。					
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	定期考査・小テスト、問題集の取り組み、観察・実験等の取り組み			
		b	思考・判断・表現	定期考査、板書及びプリントの内容、問題集の取り組み、観察・実験等の取り組み・レポート			
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み、出席状況、プリントや問題集の提出状況 自学自習の取り組み			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価 (A、B、Cの3段階) および評定 (1～5の5段階) にまとめます。						
期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	第1章生物の特徴 ・生物の共通性 ・生物とエネルギー	地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。また生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。	○	○	○
	5	7					
	6	8	第2章遺伝子とその働き ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報とタンパク質の合成	遺伝子とDNAと染色体の関係について学習し、DNAの基本的構造を理解する。また、生体内に多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとして働いていることを理解する。	○	○	○
2	9	8	第3章ヒトのからだの調節 ・体の調節と情報の伝達	恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。また、自律神経系と内分泌系それぞれによる体内環境の調節と相互関係について理解する。	○	○	○
	10	7					
	10	7	・免疫	病原体から身を守るための生体防御について理解する。	○	○	○
3	11	9	第4章生物の多様性と生態系 ・植生と遷移	植生は森林・草原・荒原に大別され、不変ではなく遷移していることを理解する。	○	○	○
	12	6					
	12	7	・生態系とその保全	生態系の構成について、種の多様性や個体数は環境と密接に関係していることを理解する。また、生物が食物連鎖 (植物網) によってつながっていることを理解する。	○	○	○
担当者からのメッセージ (学習方法など)							

毎回の授業に集中して取り組み、プリントや実験レポート、問題集等を必ず提出してください。定期考査は授業内容を問われるので、日々の復習をしっかりと臨んでください。